

南アフリカ

エイズや格差とともに暮らす人々が自信を持てるように



この村の
未来を担うのは、
私たち

アパルトヘイトの終焉から20年経った現在も黒人社会の非就業率は約60%にも上り、貧富の格差は広がり続けています。さらに人口の約12%がHIV（エイズウイルス）に感染し、毎日800人を超える人がエイズで亡くなっています。一方で、以前は死に至る病気だったHIV/エイズは、2004年に開始された公的医療機関でのエイズ治療薬（ARV）無料支給が定着してきたことで、感染していても長年生きることのできる病となり、求められるケアや対策も変化しつつあります。



テキストを見ながらARVの見分け方を学ぶHIV陽性者自助グループメンバーたち



HIV/エイズとともに生きる人々を支える

住民参加型 HIV/エイズ予防及び陽性者支援プロジェクト（リンポポ州ベンベ郡）

リンポポ州ベンベ郡において現地NGO「LMCC」および「チルンザナニ」と協働し、「住民参加型HIV/エイズ予防啓発活動およびHIV陽性者支援強化事業」を実施しています。

2015年度は事業開始から3年目を迎え、活動を振り返るための評価を実施しました。その結果、一部の活動について持続性に不安が残るとして、2016年度の1年間、事業期間を延長することが決まりました。

2015年度報告

■ 訪問介護ボランティアの研修

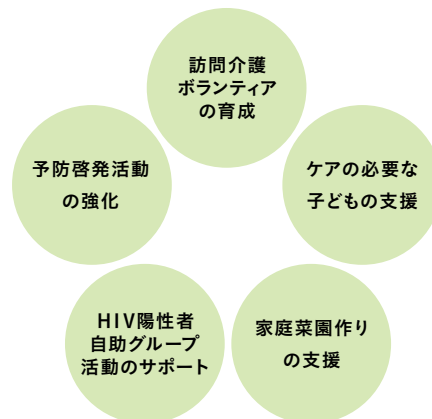
訪問介護ボランティアは、治療の相談に乗るなど、地域の中で孤立しがちなHIV陽性者を支えています。

2014年度からはチルンザナニのボランティア約25名を対象とした研修を中心に活動を行っています。この研修で得た情報を家庭訪問の際に伝え続けたことで、ボランティアと患者の信頼関係が深まり、アドバイスを受け入れるようになった事例も確認されました。

■ 家庭菜園研修

副作用の強いエイズ治療薬を飲むには十分な食事をとることが必須ですが、自宅に食べ物がなく命を落とすHIV陽性者もいます。そこでJVCは家庭菜園での野菜作りの方法を伝えています。

JVCと現地NGOと 住民ボランティアで取り組む 5つの柱



↓
地域住民が
HIV陽性者を支え
感染を予防する。

LMCCの活動地域では、村内で家庭菜園の実践を広げていく人材として初年度から育成してきたファシリテーター6名が、2014年度より村人への研修を開始、2015年度は自分たちで研修後の日常的なモニタリングを実施できるようになりました。その結果、これまで研修を受けた84名のうち64名が菜園作りを継続していることが確認されています。

チルンザナニの活動地域では、これまでの研修生のうち3名が将来的に村の中の中心的な役割を担っていける人材として育ってきました。3名とも20～30代と若く、今後の活躍が期待されます。132名中80名の研修生が菜園づくりを継続しています。

■子どもケアボランティアの研修

LMCC活動地域の3村の子どもケアセンターと活動を実施しています。センターのボランティア約20名を対象に、センターの日常的な活動を充実させるための研修を実施した結果、内容が改善され、センターに継続的に通う子どもの数が増加しました。また、活動の充実を受けて、10代の子どもたちの間で、自分たちでスタディーグループをつくるなどの積極性が見られるようになりました。

■HIV予防啓発活動の強化

LMCC活動地域では、3村の子どもケアセンターのボランティアが、過去の研修の学びを活かし、村内の小中学校や村長と協力しながら自主的かつ日常的にHIVやその他トピックに関する啓発活動を実施するようになってきました。

チルンザナニの活動地域では、訪問介護ボランティアたちが予防啓発キャンペーンを実施、約200名が参加した結果、60名の住民のHIV検査につながりました。

■HIV陽性者自助グループ活動のサポート

自助グループメンバー10～16名を対象にエイズ治療に関する研修を2回実施しました。その結果、ARVの服薬方法を正しく知ったことで体調が改善する、自分の感染を受け入れて前向きになるなどの変化が参加者の間で見られました。また、研修後に母子感染予防や服薬方法に関する情報を周囲に伝え、妊婦にHIV検査を勧め始めたなどの報告もあり、当事者による予防啓発活動の芽が見え始めています。



問題を隠す家庭が多いことが課題。訪問介護ボランティア研修ではその対応方法を学ぶ



困難な家庭環境にある子どもたちを対象とした菜園研修を行った



子どもケアセンターのボランティアによる学校での啓発活動



若者から若者にHIV感染予防を伝える活動が始まっている

2016年度計画

2015年度に実施した事業評価の結果、一部の活動については1年間の活動期間延長が決定されました。LMCC活動地域では、子どもケアセンターに通う10代の子どもたちによる予防啓発などの活動を強化、併せてケアボランティアを対象に、子どもによる活動をサポートするための研修を実施します。チルンザナニの活動地域では、HIV陽性者を対象としたエイズ治療研修と家庭菜園研修、フォローアップを実施します。

参加者の声

「パーマカルチャーは私の生きる道です。近所の人や教会仲間に菜園作りを教えたり、困っている人に野菜を無償提供したりと地域の役に立つことができ、大きな喜びを感じています。」



フローレンス・マシャウさん
(村の菜園トレーナー)

